



TITLE:

米國費府のプラネタリウムだより (プラネタリウム特輯)

AUTHOR(S):

CITATION:

米國費府のプラネタリウムだより (プラネタリウム特輯). 天界 1937, 17(191): 179-179

ISSUE DATE:

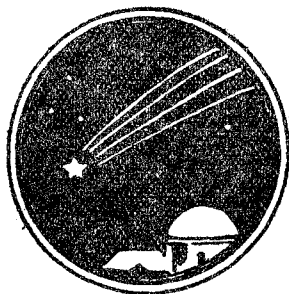
1937-02-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167431>

RIGHT:

米國費府のプラネタリウムだより



4, 5日前在フキテデルフィヤの子供より左の通信に接し候。

其1節.“先達プラネタリウムに行つて來ました。これだけはうまく考へたものです。科學の殺風景な世界にもこゝだけは何となく溫く感ぜられました。お父さん！いつやら獨逸のツアイスのカタログの中で星座を示す機械を見たことがあるでしょう。天井が圓くなつてゐて、室の眞中に機械があり、中に電燈があり、其の光が小さな穴を通して丸天井に映るのです。始めに黄昏、次第に夜が更けて行くと、星がキラキラ見え出します。説明者がゐて星に關する概念を與へた後「最初のクリスマスの空」を見せてくれました。即ちイエス様がベテレハムの馬小屋でお生れになり、3人の東方の博士達が訪ねて來た時分の空です。約2000年前の空、北極星の位置が少し違つてゐたでせう。それから、火星、土星、木星の3星邂逅です。此3星の邂逅を3人の博士達が見て人類の王の誕生を信じて拜しに來たのだといふ説明があり、丸天井には白衣の天使の姿がうつし出され、青、黄、橙の雲が表はれ、其下にヨセフとマリアの繪がうつし出され、サイレントナイトの讚美歌と聖書の朗讀とで夜が次第に明け、プラネタリウムに於ける1時間半の空の見物を終りました。之れを見て何人もの人が、かつて肉眼で星の空を眺め、胸打つたものがあるでせうか、之れから一つ空を見てやらうと決心して、そこを出て行く何人の方がゐるでせうか。これから、また、こゝを訪ねる澤山の人があるでせうが、願はくはこれにより、細かく輝く天の星を心から眺める人の多からんことを願つて居ります。”云々。

——(長谷川周治)

訂正 前號(190號)卷頭文中、紀元節が舊曆正月元旦に當る年として1918年を附加す。